

1 へき地医療におけるデジタル技術の活用について

(令和4年度第1回東京都へき地医療対策協議会での検討)

高齢化の進展や医療資源が都市部に比べて少ないというへき地の課題を踏まえ、今後、医療分野においてデジタル技術をどのように活用していくべきか。

〔へき地においてICT(情報通信技術)を活用する目的〕

- 必要な情報の伝達・提供・共有や、医療の提供をネットワークを介して迅速かつ円滑に行う。
 - 医療資源へのアクセス環境の改善
 - 医療関係職種の特長性の活用
 - 医師の働き方改革への寄与
- ⇒ 良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制の確保を推進

〔ICTを活用する前提〕

- ICTを活用した医療が十分に効果を発揮するためには、遠隔医療等を利用する関係者の間で円滑なコミュニケーションが行われていることが必要。
- ⇒ 通信インフラや情報システム等を整備するだけで効果が得られるものではなく、関係者間の良好な人的ネットワークによって積極的・効果的に活用されるものである。

(総務省 遠隔医療モデル参考書(2022年4月28日版)から引用)

● 活用の方向性等について (主な御意見)

| | | |
|------------------|---|--|
| 検討方針 | デジタル技術を活用して、いかに、へき地の医療環境を充実させていくかというような方向性を持って、現状や必要性、課題を抽出しながら検討を進める。(住民の経済的・精神的負担の軽減にもつながる。) | |
| 電子カルテ情報の共有 | 診療支援の一環として位置づけ、関係者の十分な協議と長期計画の下で導入を進めていく必要がある。 | |
| 医療従事者間の遠隔医療 | <ul style="list-style-type: none"> ● 専門的なコンサルテーションとしての遠隔医療は有効である。 ● 支援する側の負担(マンパワー等)への対応も同時に考えていく必要がある。 | |
| 医療従事者と患者間の遠隔医療 | D to P with D or N | <ul style="list-style-type: none"> ● 予定された専門医が悪天候で来られない場合などに大変有効であると思う。 ● 遠隔医療のスキルが一定程度必要であり、お互いの理解やトレーニングが必須。診療の片手間でできるものではなく、開始までに十分な準備が必要である。 |
| | D to P | <ul style="list-style-type: none"> ● 直接診てもらいたいという患者さんの希望は大変大きく、慎重に検討する必要がある。 ● 遠隔離島の患者にとって移動の負担が大きい場合もあり、診療科によっては活用できるかもしれない。 |
| 第5世代移動通信システム(5G) | 5Gを使った動画について、実際にその場で見ているものと同じように見られるのであれば、救急診療や専門診療等にかなり役立つのではないかと期待している。 | |

2 デジタル技術の活用に係るニーズ等調査結果について

【目的】 個別の地域特性や課題、ニーズを把握すると共に、ICTを活用した医療による課題解決の可能性等を調査する。

【調査期間】 へき地町村への調査 … 令和4年11月9日から 12月22日まで

へき地医療拠点病院(島しょ医療の基幹病院)への調査 … 令和5年1月11日から 1月18日まで

【調査機関】 特定非営利活動法人 日本遠隔医療協会、東京都

【調査方法】 現地でのヒアリング調査(医療関係者及び行政担当者)

(1) 新たなデジタル技術活用の可能性

| | | |
|---------------------------|-------|---|
| へき地町村 | 山間地域 | <ul style="list-style-type: none"> 地域医療情報連携ネットワーク(にしたまネット)への参加 |
| | 島しょ地域 | <ul style="list-style-type: none"> 本土医療機関との電子カルテの相互参照ネットワークの構築 天候理由等による専門診療を中止時、代替手段としてのオンライン診療確保 専門性の高い診療科(指定難病・整形外科等)について、遠隔連携診療の実施(D to P with D) 本土医療機関による遠隔透析モニタリングの導入 島内の多職種(訪問看護・介護事業者)とのネットワーク連携推進、PHR(パーソナルヘルスレコード)の活用 人材不足対策として、オンライン服薬指導・栄養指導の活用、遠隔医事サービスの導入、医療・検査機器と電子カルテの連携等 |
| へき地医療拠点病院 (島しょ医療の基幹病院) | | <ul style="list-style-type: none"> 広尾病院と島しょ医療機関間の電子カルテ情報の共有 高精細な動画を活用し、予め曜日や時間を設定したうえで行う遠隔診療支援(循環器等) 高精細な動画やコミュニケーションツールを活用し、救急診療時に行う遠隔診療支援(脳神経外科等) 現地医師等の協力のもと、ビデオ通話等を用いて実施する遠隔専門診療 島しょで実施する住民向け公開講座の配信 |

(2) 推進に向けた課題等

| | | |
|---------------------------|-------|--|
| へき地町村 | 山間地域 | <ul style="list-style-type: none"> 電子化が進んだ際のサイバーセキュリティ対策 |
| | 島しょ地域 | <ul style="list-style-type: none"> 医療機関に接続された固定回線の通信速度は良好だが、移動系通信については通信困難地域が散在 オンライン診療等を診療所で実施する場合に、患者のプライバシーを確保できるブース等の改築、設置 ICTの利活用を推進できる専門的知識を持った人材の不足 |
| へき地医療拠点病院 (島しょ医療の基幹病院) | | <ul style="list-style-type: none"> 業務負担に対する評価(読影画像の質等、再コンサル時の負担感)、診療責任及び経費負担(診療報酬の評価外) 緊急性の低い読影の増加への対応(読影専門業者の活用等) 島しょ医療機関とのコミュニケーション不足 システム連携時のサイバーセキュリティ対策 |
| 東京都 | | <ul style="list-style-type: none"> 画像電送システムが設置されていない都立病院への救急患者搬送時の対応(患者情報の共有手段) |

3 へき地医療機関におけるデジタル技術の活用に係る推進計画（案）

1 情報化 電子カルテシステム

★ 新たに国庫補助等を活用することにより積極的に推進する事業

- 医療情報連携ネットワークを活用した電子カルテの相互参照による情報の共有化を推進していく。

| 取組 | |
|-----|---|
| 山間 | ➢ 地域医療情報連携ネットワーク(にしたまネット)への参加を検討 |
| 島しょ | ★ 広尾病院を中心とした本土医療機関との診療情報の相互参照ネットワークの構築にむけ関係者で協議 ➢ ネットワーク構築に伴う将来的な画像電送システムとの整理統合を検討 |

2 遠隔医療 ① 医療従事者間の遠隔医療 ② 医療従事者と患者間の遠隔医療

- 連携医療機関や医師確保事業協力医療機関、専門診療協力医療機関等との連携により、医療従事者間の遠隔医療の導入等を推進していく。
- 島しょ地域について、支援側の広尾病院と都が連携して導入の課題解決にあたり、活用を推進していく。
- 町村内でのICTの利活用については、移動系通信設備の整備状況等に差があることから、実情に合わせて導入していく。

| 取組 | |
|--------------------|--|
| 島しょ | <遠隔放射線画像診断 (D to D) > ➢ 放射線画像診断専門医による遠隔読影体制の強化策を検討 ➢ 診療放射線技師や放射線診断専門医等による撮影方法の研修等を検討 |
| 島しょ | ★ <遠隔連携診療 (D to P with D or N) > ➢ 専門性の高い診療科について、通常診療や救急診療時に行う高精細な動画を活用した遠隔診療支援の検討（5Gの活用は、各島での5Gの整備状況や先行導入例を踏まえて検討） ➢ 島しょの医師等の協力のもと、ビデオ通話等を用いて実施する遠隔専門診療の実施検討（モデル実施により課題整理、ガイドライン等を整備） ➢ 本土医療機関による遠隔透析モニタリングの導入の可能性を検討 |
| 島しょ | <情報共有> ➢ 医療用コミュニケーションツールを活用し、救急搬送時の現地医師・収容病院(救急部門)・添乗医師間の情報共有を実施 |
| 島しょ ----- 共通 | <オンライン診療 (D to P) 等> ➢ 支援側医療機関（広尾病院等）で実施する場合の課題整理・検討 ➢ オンライン服薬指導やオンライン栄養指導等の活用に向け、協力薬局等を開拓 |
| 共通 | <遠隔カンファレンス> ➢ 介護事業者を含めた退院カンファレンスの実施等、急性期から回復期、在宅療養に至るまでの連携方法の検討（多職種連携コミュニケーションツールの導入等） ➢ 住民向け公開講座のライブ配信等を検討 |
| 共通 | <その他> ➢ 遠隔医事サービスの導入や医療・検査機器と電子カルテの連携等について、人材確保策や業務効率化を踏まえ検討し、医療機関の実情に応じて導入 |